

倫理審査申請書

2026年 7月 22日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 大谷 奨

所 属 第2リハビリテーション課

職 名 理学療法士

受付番号 ER2026-54 （※事務局で記入）

所属長の印



1 審査対象

症例報告 （発表予定日 2026年10月24日） *発表予定日未定の場合は未定と記載

2 課題名

*未定の場合も「～（仮）」として記載ください。

重症心筋梗塞後の心臓リハビリテーションにおいて Shared Decision Making を活用し良好な運動アドヒアランスが得られた1症例(仮)

3 症例報告実施者

氏名：大谷 奨 所属：第2リハビリテーション課 職名：理学療法士

4 症例報告の概要

重症急性心筋梗塞に対し、SDM を活用した急性期からの運動アドヒアランス支援を経験した。患者主体の目標設定と自己選択型の運動により、意欲・運動アドヒアランスの向上が得られ、有害事象なく段階的離床と自宅退院に至った。SDM は急性期リハビリテーションにおける運動継続支援の一助となる可能性が示唆された。

5 医療行為における医学倫理的配慮について（I～VIVは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

すべてのデータは匿名化し、個人が特定できないように十分注意を払った。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト

②書面による同意 *同意書のひな型を添付ください。

③その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

理学療法の介入による転倒の危険性

IV 予測される医学上の貢献

SDM は急性期リハビリテーションにおける運動継続支援の一助となる可能性がある。

V その他（症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

症例数等：1

注意事項 審査対象となる症例報告原稿のコピーを添付して下さい。

倫 理 審 査 申 請 書

2026 年 7 月 22 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 大谷 奨



所 属 第 2 リハビリテーション課

職 名 理学療法士

受付番号 FR2026-55 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

症例報告 (発表予定日 2026 年 11 月 21 日) *発表予定日未定の場合は未定と記載

2 課題名

*未定の場合も「～ (仮)」として記載ください。

慢性うつ血性心不全の急性増悪患者における離床時低血圧と心理的要因に配慮した ADL 拡大支援

3 症例報告実施者

氏名：大谷 奨 所属：第 2 リハビリテーション課 職名：理学療法士

4 症例報告の概要

慢性うつ血性心不全の急性増悪患者に対し、離床時低血圧と活動への恐怖に配慮しながら理学療法を実施した。循環動態に応じて運動負荷を調整しながら、患者の不安は看護師と共有し、離床の支援を行った。その結果、病棟 ADL は自立し自宅退院に至った。心不全患者では循環管理に合わせた運動負荷に加え、心理的要因への介入・多職種で連携した支援が重要性が示唆された。

5 医療行為における医学倫理的配慮について (I ～ VIV は必ず記載のこと)

I 医療行為の対象となる個人の人權の擁護

すべてのデータは匿名化し、個人が特定できないように十分注意を払った。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト

②書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③その他 ()

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

理学療法の介入による転倒の危険性

IV 予測される医学上の貢献

心不全患者では適切な運動負荷に加え、心理的要因への介入・多職種連携が重要である

V その他 (症例数等) *未定の場合は見込みを記入すること

症例数等：1

別記第 1 号様式（第 6 条関係）

倫 理 審 査 申 請 書

2026 年 7 月 24 日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 仁儀 明納



所 属 呼吸器内科

職 名 医師

受付番号 PR2026-56 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

- ☒ ① 実施計画 診療情報を用いた後ろ向き研究
☐ ② 出版・公表予定原稿 (発表予定日 未定)

2 課題名

Stage IV 非小細胞肺癌における診断後 90 日以内死亡に関連する臨床因子の検討
—単施設後ろ向きコホート研究—

3 主任医療行為者名

氏名：仁儀 明納 所属： 呼吸器内科 職名：医師

4 分担医療行為者名

氏名： 所属： 職名：

5 医療行為等の概要

内服・注射（後ろ向き cohort であり、介入行為なし）

6 医療行為等の対象及び実施場所

入院・外来 採血検査
(後ろ向き cohort であり、介入行為なし)

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅳは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

ヘルシンキ宣言に基づいて症例報告及び学会発表を行う。

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト

②書面による同意

③その他（ ）

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

症例報告及び学会発表のため不利益はない。

Ⅳ 予測される医学上の貢献

進行非小細胞肺癌では治療成績の報告が多い一方、診断後早期に死亡する患者の臨床像は十分に明らかではない。本研究により 90 日以内死亡に関連する臨床因子を明らかにすることで、早期リスク評価、治療方針決定、支持療法・緩和ケア介入時期の検討に寄与することが期待される。

Ⅴ その他（症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究機関：2019 年 1 月～2025 年 12 月 30 日(診断日)

2026 年 6 月 30 日(患者追跡の中止日)

症例数等：550 例

別記第1号様式（第6条関係）

倫理審査申請書

2026年7月24日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 奥田 太郎 
所 属 小児科
職 名 副部長

受付番号 EP2026-57 (※事務局で記入)

所属長の印 

1 審査対象	*何れかに○を付けてください。
1) 実施計画	
2) 出版・公表予定原稿	(発表予定日: 年 月 日)
2 課題名	*未定の場合も「～(仮)」として記載ください。 ACTH療法と抗発作薬の併用に関する研究
3 主任医療行為者名	氏名: 奥田 太郎 所属: 伊勢赤十字病院 小児科 職名: 副部長
4 分担医療行為者名	氏名: 奥田 太郎 所属: 伊勢赤十字病院 小児科 職名: 副部長 氏名: 一見 良司 所属: 伊勢赤十字病院 小児科 職名: 部長
5 医療行為等の概要	*研究の内容についてご記載ください。 West 症候群または乳児てんかん性スパズム症候群 (Infantile Epileptic Spasms Syndrome; IESS)と診断された患者を対象に、抗発作薬併用の有無による ACTH 療法前後 1 年間の発作回数を主要評価項目に、副次評価項目として、スパズム消失までの期間やスパズム消失後の発作抑制期間、脳波異常の消失時期、副作用、発達指数の推移、基礎疾患や脳構造異常を後ろ向き観察研究で行う。
6 医療行為等の対象及び実施場所	*研究対象者・データ等についてご記載ください。 2017 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの間に West 症候群または乳児てんかん性スパズム症候群 (infantile Epileptic Spasms Syndrome; IESS)と診断された患者で発症年齢が 2 歳未満、さらに上記 8 年間の間に ACTH 療法を実施した患者を対象とする。

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（I～Vは必ず記載のこと）

I 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

「ヘルシンキ宣言」、および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に従って本研究を実施する。

II 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

①オプトアウト¹

②書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③その他（ ）

III 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

後ろ向き観察研究のため、個人への不利益・危険性は発生しない。

IV 予測される医学上の貢献

・ACTH療法中およびACTH療法後の抗発作薬併用の有無と発作抑制効果ならびに脳波改善との関連が窺間になる。また日本国内におけるIESS治療の実態を把握できる

V その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間：機関の長の許可後～2028年3月

症例数等：100例（目標）

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院HP上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

乳児てんかん性スパズム症候群、West 症候群、點頭てんかん等で ACTH 療法を受けた患者さん・ご家族の皆様へ

「ACTH 療法と抗発作薬の併用に関する研究」について

はじめに

乳児てんかん性スパズム症候群 (Infantile epileptic spasms syndrome: IESS) は 2 歳までに発症し、特徴的な発作 (てんかん性スパズム)、脳波の異常、発達の停滞や退行を呈する疾患です。以前は West 症候群や點頭てんかんと呼ばれていました。発症後、早期に診断し治療介入することが患者さんの発達予後に重要とされています。ACTH 療法や、抗発作薬の中ではピガバトリンが発作に対して最も有効とされていますが、十分な治療効果が得られないことも少なくなく、最適な治療法は確立していません。

ピガバトリンや硫酸マグネシウムという薬と ACTH 療法を併用した場合、ACTH 療法だけで治療した場合と比べて発作抑制に有効とされています。今回、日本で乳児てんかん性スパズム症候群に対し ACTH 療法を実施した患者さんについて調査し、抗発作薬と ACTH 療法を併用することの効果进行调查します。また、ピガバトリンが日本で承認されたのは 2016 年であることから、近年の日本における乳児てんかん性スパズム症候群に対する抗発作薬を用いた治療の実態についても明らかにしたいと考えております。

この研究は鳥取大学医学部倫理審査委員会の承認を経て、医学部長の承認を受けています。詳細は以下のとおりです。

1. 研究概要および利用目的・方法

本研究では 2017 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの期間に、日本小児神経学会のホームページで公開している小児神経専門医名簿に記載されている医師の所属施設、及び小児神経専門医研修認定施設と関連施設 (別紙 1 参照) において、2 歳未満で発症した乳児てんかん性スパズム症候群に対し初回の ACTH 療法を実施した患者さんのカルテ等から情報を集めさせていただき、「ACTH 療法中および ACTH 療法後における抗発作薬併用の有無と発作抑制効果」ならびに「脳波改善との関連」を調査します。また、それ以外にも「乳児てんかん性スパズム症候群に対する使用薬剤、併用方法、副作用、治療成績などの実態」についても調査を予定しています。

すべての情報は、鳥取大学医学部附属病院で集計されます。また、情報は、研究責任者が責任を持って保管、管理します。

本研究の対象となる患者さんは、他の研究対象者への個人情報保護や本研究の独創性の確保に支障がない範囲で、研究計画書及び研究の方法についての資料を入手又は閲覧することができます。希望される方は、遠慮なく問合せ窓口にお申し出ください。

2. 取り扱う情報

患者さんのカルテ等の診療情報から以下の項目を集めさせていただきます。

【患者さんの情報】

- ・性別
- ・生年月日

- てんかん病因（構造的、素因性、感染性、代謝性、免疫性）
- 原因疾患
- 原因遺伝子
- てんかん性スパズムの発症日
- ACTH 療法前のてんかん性スパズムの頻度
- ACTH 療法開始時の体重
- ACTH 療法開始前の最終の発達指数
- ACTH 療法直前の脳波検査日
- ACTH 療法直前の脳波所見

【治療内容】

- ACTH 療法開始日
- ACTH 投薬量
- 増量後の ACTH 投薬量
- ACTH の連日投与終了日
- ACTH 療法前から ACTH 療法連日投与終了後 1 年間に使用した抗発作薬
- 各抗発作薬の開始日
- 各抗発作薬の最大用量
- 各抗発作薬を使用、増量、追加した理由
- 各抗発作薬の中止日
- 各抗発作薬を中止した理由
- 各抗発作薬の副作用
- IESS の治療のため抗発作薬以外に使用した薬剤（中枢神経作動薬など）

【経過および転帰】

- ACTH 療法終了時のてんかん性スパズムの頻度
- てんかん性スパズムの消失時期
- 発作再発の有無、再発時期
- 発作再発時の発作型
- てんかん性スパズム以外の発作型
- ACTH 療法終了時（連日投与終了時）、ACTH 療法終了から 1 年後の脳波所見
- （てんかん性スパズムが消失しなかった場合）ACTH 療法終了から 1 年後の抗発作薬治療による最大効果
- ACTH 療法終了から 1 年後の発達指数

3. 研究期間

この研究は、鳥取大学医学部長が研究の実施を許可した日から 2028 年 3 月まで行う予定です。

4. 個人情報保護の方法

患者さんの情報は、研究責任者が責任をもって保管、管理します。また、氏名、イニシャル、住所、電話番号、カルテ番号などの直ちに個人を識別できる個人情報は匿名化*され、本研究では匿名化された情報を使用します。このようにして患者さんの個人情報の管理については十分に注意を払います。

***匿名化について：**本研究にご提供いただく情報については、患者さんの氏名、住所、電話番号、カルテ番号など、患者さん個人を直ちに特定できるような情報をすべて削除し、代わりにこの研究用の登録番号をつけます。なお、研究の過程で情報がどの患者さんのものかを知る必要がある場合も想定されます。その場合に備えて、情報と患者さん個人を結びつけることのできる対応表を作成させていただきますが、この対応表は研究責任者によって鍵のかかる保管庫で厳重に管理されます。

5. 研究への情報提供による利益・不利益

【利益】

今回の研究に情報をご提供いただいた患者さん個人には、特に利益と考えられるようなことはございませんが、研究の成果は、将来の乳児てんかん性スパズム症候群の治療法の進歩に有益となる可能性があります。なお、情報を使用させていただいた患者さんへの謝礼等もありません。

【不利益】

カルテ等からの情報収集のみであるため、特にありません。

6. この研究終了後の情報の取り扱いについて

今回、集めさせていただいた患者さんの情報が医学の発展に伴い、他の病気の診断や治療に新たな重要な情報をもたらす可能性があります。このため、患者さんの情報は、この研究終了後も保存させていただき、他の研究に使用させていただくことがあります。その場合は、新たに研究計画をたて倫理審査委員会での審査を経て、他の研究に使用させていただきます。

情報は、当該研究の終了について報告された日から5年を経過した日又は当該研究の結果の最終の公表について報告された日から3年を経過した日のいずれか遅い日までの期間とします。保存期間終了後は、患者さん個人を特定できない状態にして適切に廃棄します。

7. 研究への情報使用の取り止めについて

患者さん個人の情報を研究に用いられたくない、または鳥取大学医学部附属病院への情報の提供を停止したい場合には、いつでも取り止めることができます。取り止めを希望された場合でも、担当医や他の職員と気まずくなることはありませんし、何ら不利益を受けることはありませんので、下記【問い合わせ窓口】までお申し出ください。未成年者の方では、保護者の方（父母、成人の兄弟、祖父母、同居の親族などの近親者）からの研究不参加のお申し出やお問い合わせに対しても対応いたします。

取り止めの希望を受けた場合、患者さんの情報を使用することはありません。この場合には、個人を特定できない状態にして、速やかに廃棄させていただきます。

しかし、取り止めを希望した時点で、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合のように、結果を廃棄できない場合もあります。

8. 当該臨床研究に係る資金源について

本研究は、鳥取大学医学部附属病院脳神経小児科の研究費で行っており、特定の企業・団体等からの支援を受けて行われるものではなく、利益相反状態にはありません。

9. 研究成果の公表について

研究成果が学術目的のために論文や学会で公表されることがありますが、その場合も、患者さんの個人が特定される情報は全て削除して公表します。情報の秘密は厳重に守られ

ますので、第三者に患者さんの個人情報が増えることはありません。

10.知的財産権の帰属について

本研究の結果、特許などの知的財産が生じる可能性もございますが、その権利は鳥取大学に帰属し、あなたには帰属しません。

11.問い合わせ窓口

本研究についてのご質問だけでなく、患者さんの情報が研究に用いられているかどうかをお知りになりたい場合や、患者さんの情報の使用を望まれない場合など、この研究に関することは、下記の窓口までお問い合わせ下さい。

【研究責任者】

岡西 徹 鳥取大学医学部附属病院 脳神経小児科 准教授
〒683-8504 鳥取県米子市西町 36-1
TEL：0859-38-6777/FAX：0859-38-6779

*この研究に関する情報は、鳥取大学医学部附属病院のホームページに掲載しております。
(URL：<https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/departments/center/amirt/3294/>)

12.既存情報の提供のみを行う医療機関

別紙1 参照

別記第1号様式（第6条関係）

倫理審査申請書

2026年 7月 28日提出

伊勢赤十字病院

倫理委員会倫理委員長 殿

申請者 大田 麻美



所属 看護部

職名 救急外来

受付番号 FR2026-58 (※事務局で記入)

所属長の印



1 審査対象

- (1) 実施計画
(2) 出版・公表予定原稿 (発表予定日: 年 月 日)

2 課題名

救急外来を受診した患者の疼痛ケア実践に関する診療録調査および患者質問紙による単施設横断研究

3 主任医療行為者名

氏名: 大田 麻美 所属: 看護部 職名: 看護係長

4 分担医療行為者名

氏名: 井上 智子 所属: 国際医療福祉大学大学院 職名: 看教授

5 医療行為等の概要

*研究の内容についてご記載ください。

救急外来での疼痛管理に関して診療録及び患者アンケートを実施したい

6 医療行為等の対象及び実施場所

*研究対象者・データ等についてご記載ください。

救急外来来院患者

詳細は添付の計画書参照

注意事項 審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。

審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。

7 医療行為における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴは必ず記載のこと）

Ⅰ 医療行為の対象となる個人の人権の擁護

本研究は「看護研究における倫理指針」を遵守し、所属機関（伊勢赤十字病院）の倫理審査の承認を得て実施する。

Ⅱ 医療行為の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。

① ☒ オプトアウト¹

② 書面による同意

*同意書のひな型を添付ください。

③ その他（ ）

Ⅲ 医療行為により生じる個人への不利益並びに危険性

介入のない観察研究ではあるが、対象者は疼痛体験を想起することもあり、配慮が必要。詳細は計画書参照

Ⅳ 予測される医学上の貢献

救急外来における疼痛管理の示唆を得る。

Ⅴ その他（研究期間、症例数等） *未定の場合は見込みを記入すること

研究期間：2026.8-2028.3

¹ 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

救急外来を受診された患者様各位
各位

「救急外来を受診した患者の疼痛ケア実践に関する診療録および患者質問紙による
単施設横断研究」

研究のご協力のお願い

拝啓

突然のご案内にて失礼いたします。この度は救急外来を受診され、ご不安や体調の辛いなか、大変な時間を過ごされたこととお察しいたします。お体の具合はいかがでしょう。

現在、救急外来における「痛み」に対するケア（疼痛ケア）をより良くしていくための研究を行っております。救急外来では、怪我や病気の治療が最優先で行われますが、患者さんが抱える「痛み」を適切に和らげることも、お体の回復や安心感に繋がる極めて重要な医療の役割です。しかし、わが国の救急現場において、患者さんがどのような痛みを感じ、どのようなケアを必要とされているかについての学術的な知見は、未だ十分ではありません。

本研究は、救急外来を受診された皆様の貴重なご経験を伺い、その実態を明らかにすることで、今後の救急看護の質の向上と、より効果的なケアのあり方を提示することを目指しています。皆様の声は、将来同じように痛みを持って受診される方々が、より適切なケアを受けられる環境を創るための大切な礎となります。

つきましては、本研究の趣旨にご賛同いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本調査にご協力いただける場合は、返信用封筒にてご返送もしくは、当施設に設置しております回収箱へ投函いただきますようお願いいたします。

敬具

① 研究の名称及び当該研究の実施について研究機関の長の許可を受けている旨

研究の名称：「救急外来を受診した患者の疼痛ケア実践に関する診療録および患者質問紙による単施設横断研究」

承認番号：本研究は、国際医療福祉大学（倫理審査承認番号：26-TA-079）の承認を受けて実施されます。

② 当該研究対象者に係る研究協力機関の名称、既存試料・情報の提供のみを行う者の氏名及び所属する

機関の名称並びに全ての研究責任者の氏名及び研究機関の名称

本研究は、国際医療福祉大学の単施設研究として行われます。

研究責任者： 国際医療福祉大学大学院 教授 井上 智子

研究実施代表者： 国際医療福祉大学大学院 博士課程 大田 麻美

③ 研究の目的及び意義

わが国の救急外来には、痛みを抱えた患者さんが多く受診されますが、そのケアや治療は必ずしも十分ではないと言われています。この研究の目的は、救急外来における疼痛ケアの現状を多角的に捉え、適切なケアの提供を妨げている「障壁」が何であるかを明らかにすることです。今回実施する質問紙調査の結果を元に患者様の視点から課題を明らかにすることで、今後の救急外来において、患者様の苦痛を和らげ、安心できる看護ケアのあり方を検討するための基礎資料とすることを目指しています。

④ 研究の方法（研究対象者から取得された試料・情報の利用目的を含む。）及び研究期間

【研究の方法】 本研究では、質問紙調査を行います。

1. **質問紙調査：**救急外来での体験について、以下の内容を質問紙にてお伺いします。所要時間は10分程度を想定しています。

- 受診時の痛みの強さ、痛みに伴う不安感の有無
- 痛みに対する考え方
- 受けたケア（痛み止めの使用や説明、医療者の態度など）に対する満足度

【研究期間】 承認日～2028年3月31日

⑤ 研究対象者として選定された理由

本研究では、以下の基準を満たす方にご協力をお願いしております。

- 伊勢赤十字病院の救急外来を受診された方
- 18歳以上の方
- 来院時に痛みがあった、または痛みを伴う症状があった方

⑥ 研究対象者に生じる負担並びに予測されるリスク及び利益

【負担とリスク】 質問紙にお答えいただくために一定のお時間をいただきます。また、過去の痛みの体験や不安について思い出していただくため、心理的なご負担を感じる可能性があります。もし回答中に気分の不快などを感じた場合は、いつでも中断することができます。

【利益】 この研究に参加することによる、あなたご自身の直接的な治療上の利益はありません。しかし、この研究の成果は、将来の救急外来における疼痛ケアの質を向上させるために役立てられます。

⑦ 研究が実施又は継続されることに同意した場合であっても随時これを撤回できる旨（研究対象者等からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があるときは、その旨及びその理由）

この研究への参加はあなたの自由意思によるものです。同意した後でも、いつでも同意を撤回することができます。質問紙については、回答・返送をもって同意とみなしますが、提出前であればいつでもやめることができます。提出後は無記名式質問紙調査であり、個人の特定ができない形になっております。そのため、個人の質問紙を取り除くことができません。

また、本研究への参加は完全に皆様の自由な意思に基づくものです。その場ですぐに参加の可否を決定していただく必要はございません。説明書や質問紙を一度ご自宅へ持ち帰っていただき、体調が回復した落ち着いた環境でじっくりご検討いただいた上で、ご協力いただける場合のみ郵送等でご提出いただいても構いません。

⑧ 研究が実施又は継続されることに同意しないこと又は同意を撤回することによって研究対象者等が不利益な取扱いを受けない旨

研究に参加されない場合や、途中で同意を撤回された場合であっても、今後の受診（診療・入院生活）において不利益な扱いを受けることは一切ありません。

⑨ 研究に関する情報公開の方法

この研究で得られた成果は、氏名などが特定されない形で、学位審査、学会発表や学術論文として公表する予定です。その際個人が特定されることはありません。

⑩ 研究対象者等の求めに応じて、他の研究対象者等の個人情報等の保護及び当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧できる旨並びにその入手又は閲覧の方法

ご希望があった場合には、他の研究対象者等の個人情報の保護および当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、本研究の研究計画書および研究方法に関する資料を閲覧できます。これらの資料の閲覧を希望される場合は、末尾に記載の「お問い合わせ先」までご連絡ください。具体的な提供方法および日時等については、個別に調整いたします。

⑪ 個人情報等の取扱い（匿名化する場合にはその方法、匿名加工情報又は非識別加工情報を作成する場合にはその旨を含む）

ご提供いただいた質問紙は、個人が特定できないように匿名化（名前を記号などに置き換えること）して扱います。収集したデータは、研究者が所属する施設の鍵のかかる保管庫や、パスワードのかかるパソコンで厳重に管理します。質問紙にいただいた連絡先は、質問紙とは別の場所で厳重に保管し、目的以外に使用することはありません。

⑫ 試料・情報の保管及び廃棄の方法

研究実施責任者がデータを管理し、鍵のかかる個人管理のキャビネット、およびアクセス制限のあるパスワード保護された研究実施代表者所有のパソコンへ保管します。保管期間は2038年3月31日までとし、その後は復元できない状態で適切にシュレッダー廃棄およびデータ削除を行います。

⑬ 研究の資金源等、研究機関の研究に係る利益相反及び個人の収益等、研究者等の研究に係る利益相反に関する状況

本研究の実施にあたり、特定の企業等からの資金提供は受けておらず、研究の結果に影響

を及ぼすような利益相反の状態にはありません。

⑭研究により得られた結果等の取扱い

研究により得られた結果は、統計的に処理されたデータとして、また個人が特定されない形で分析し、学会発表や論文等を通じて公表するとともに、今後の救急外来における看護ケアの向上に活用します。

⑮ 研究対象者等及びその関係者からの相談等への対応（遺伝カウンセリングを含む。）

本研究に関して、研究内容に関する質問や相談、研究参加に伴う不安や苦情等が生じた場合には、研究対象者本人またはその関係者から、下記の「お問い合わせ先」にて相談を受け付けます。相談内容に応じて、研究責任者および研究実施代表者が誠実に対応いたします。

⑯研究対象者等に経済的負担又は謝礼がある場合には、その旨及びその内容

この研究に参加することによる追加の費用負担はありません。また、ご協力に対する謝礼もありません。

⑰侵襲を伴う研究の場合には、当該研究によって生じた健康被害に対する補償の有無及びその内容

本研究は、質問紙調査であり、身体的な侵襲を伴うものではないため、研究に起因する健康被害は想定しておりません。ただし、研究参加により心理的な負担や不快感が生じた場合には、研究対象者はいつでも研究参加を中止することができます。その際、不利益が生じることはありません。本研究では特別な補償制度は設けておりませんが、研究に関して懸念や不安が生じた場合には、下記に記載の「お問合せ先」ご連絡をください。研究責任者および研究実施代表者にて対応いたします。

⑱研究対象者から取得された試料・情報について、研究対象者等から同意を受ける時点では特定されない将来の研究のために用いられる可能性又は他の研究機関に提供する可能性がある場合には、その旨と同意を受ける時点において想定される内容

ご提供いただいたデータは、本研究の目的以外に利用されることはなく、将来の別の研究に使用される可能性や、他の研究機関に提供される可能性はございません。

＜お問い合わせ等の連絡先＞

研究実施代表者（研究責任者の指示の下で研究活動に従事する者）

所属：国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 博士課程

氏名：大田 麻美

E-mail：25S3007@giuhw.ac.jp

住所：東京都港区赤坂4丁目1-26

研究責任者

所属： 国際医療福祉大学大学院

職名：教授

氏名：井上 智子

E - m a i l : inouet@ihwg.jp

住所：東京都港区赤坂 4 丁目 1 - 26